



JOA トレイルO 委員会

藤島由宇

2006 年世界トレイルO選手権 総合クラス日本代表決定!

来る7月10?13日にフィンランド・ヨエンスーで開催される2006年(第3回)世界トレイルO選手権の総合クラス日本代表選手及び補欠選手が、去る3月25日に栃木県矢板市内で開催された代表選手選考委員会において下記の通り決定しました。

総合クラス日本代表選手]

杉本 光正 (東京都・ES関東C)
鈴木 規弘 (東京都・多摩OL)
山口 尚宏 (愛知県・愛知OLC/OLCL-パー)

補欠]

伴 毅 (愛知県・OLC東海)
山口 拓也 (北海道・北海道大学)

杉本選手は2年連続2度目、鈴木選手は初、山口尚宏選手(兼コーチ)は2年ぶり2度目の日本代表となります。

また補欠選手には第2回全日本選手権Eクラス第2位の伴選手(東海高校2年)と、選考委員会前に同会場で開催された'06トレイルO矢板大会Aクラスで優勝した山口拓也選手が選ばれ、チームオフィシャル(コーチ補佐)として日本選手団の構成員となります。

これに伴い、日本選手団のメンバーは下記の通りとなりました。パラリンピック・クラスの残る2名は5月21日に長崎県大村市で開催される第3回トレイルO九州大会会場で開催予定の代表選手選考委員会にて決定します。

監督 高橋 厚
選手 杉本光正 (総合クラス)
選手 鈴木規弘 (総合クラス)
選手 山口尚宏 (総合クラス)
選手 木島英登 (アメリカクラス)
選手 未定 (Pクラス)
選手 未定 (Pクラス)
補欠兼コーチ補佐 山口拓也
補欠兼コーチ補佐 伴 毅
チーム・マネージャー 小山太郎
副チーム・マネージャー 今井信親
チーム・マネージャー補佐 松川清一
障害者担当 仲尾勝利

問い合わせ先: 櫻内保幹(さくらうち やすよし、トレイルO委員長 sakura-y@aj7.mopera.ne.jp 090-3373-4909)

トレイルOにおけるコントロール位置説明「側(side)」に関するIOFトレイルO委員会の見解

IOFトレイルO委員会より、コントロール位置説明「側side」に関する見解が通知されたのでお知らせします。

トレイルOのコントロール位置説明において、「Ref 1.9 こぶ Hill」、および「Ref 1.10 小さなこぶ Knoll」に関してはG欄における「側 side」は使用しないこととする。

トレイルOのコントロール位置説明における「側 side」は、地表面からはっきりとそば立つ特徴物に近接したフラッグの位置について使用する。
例: 岩石や人工特徴物など。

日常会話用語としての「hillside, side of hill」は、丘の頂上から根元にかけてのスロープ(斜面)の地形的特徴部分を指しており、トレイルOにおける「side側」の意味するものとは一致していない。正確な表現に関して生じる混乱を排除する必要があるため、地形特徴物(ground feature)である「こぶ Hill」、および「小さなこぶ Knoll」に関しては、「側 side」は使用しない。

点状特徴物としての「小さなこぶ Knoll」に関するフラッグ設置場所は、「頂上 top」(位置説明は「小さなこぶ」と、方位を付した「根元 foot」である。(例: 小さなこぶ、北東の根元))
いずれの場合も、地図上のコントロール・サークルの中心は小さなこぶを表す茶色の点(dot)の中心である。(小山注: 頂上に設置する場合の位置説明は「小さなこぶ」のみであってG欄に「頂上」のシンボルは不要。)

点ではなく、等高線で描かれた「こぶ Hill」に関して使用できるフラッグ設置場所は次の三つである。

- ・ 「こぶ Hill」・・・フラッグ位置は、等高線で囲まれた範囲(ring contour)の中心に置く。この地点はこぶの最高地点である必要はない。
- ・ 「根元 foot」・・・方位を付ける。(例: こぶ、南西の根元)

・「部分 part」・・・斜面部分に置き、方位を付ける。(例: こぶ、東の部分)

これらのいずれの場合においても、地図上のコントロール・サークルの中心がフラッグの設置場所となる。

ここで注意しなければならないことは、等高線で囲まれた部分の中心は、丘の最高地点である必要はないことである。このことから、「こぶ」の位置説明では「頂上 top」は使用しない。最高点が等高線で囲まれた部分の中心から外れている場合があるため、地形上の等高線を読みとる高度な判断(力)が求められる。

以上

問い合わせ先: 小山太郎(こやまたらう、IOFトレイルO委員 trailorientering_taro@xb3.so-net.ne.jp 0467-82-1655(T&F))